

グアテマラ月報(2025年2月)

2025年3月
在グアテマラ日本国大使館

【ポイント】

- 渋滞緩和及び観光促進目的の新交通システム(ロープウェイ)計画が発表された。
- 4日から5日にかけてルビオ米国務長官がグアテマラを訪問。今回、両国はグアテマラによる送還移民受入れの4割増、米陸軍工兵隊によるインフラ支援、治安強化等で合意した。早速、工兵隊調査団が当国を訪問し、港湾等インフラ施設を視察するなどした。
- 駐グアテマラ台湾「大使」は、ルビオ米国務長官からグアテマラ・台湾関係への明確な支持が得られたことを受け、頼台湾総統がグアテマラとの貿易・投資を通じた更なる関係強化を目指していくと発言した。
- 当国中央銀行は、2024年の輸出総額が前年比2.8%増の145億ドルであったと発表。この増加については、中米市場の回復、農産物の生産増等に起因するとの見方がある。2025年は4%の成長が見込まれている。
- 本年1月、郷里送金は前年同月比24%増加。トランプ政権の移民政策に対する懸念を受けた資金移動が影響したとの見方がある。

1 内政

(1) アレバロ政権による腐敗対策に対する評価

14日、アレバロ大統領は国家汚職防止委員会(Comisión Nacional contra la Corrupción)の設立1周年記念式典において、国民に対して腐敗対策強化の重要性を訴えた。「ア」大統領は、2024年から始まった新政権の取組が国際的にも一定の評価を得ていると述べ、2024年のトランスペアレンシー・インターナショナルによる腐敗認識指数ランキングでグアテマラが154位から146位に僅かながらも順位を上げたことを紹介した。「ア」大統領は、「真の政治的意志があれば、腐敗対策で大きな成果を上げることができる」と述べた。

(2) 新交通システム計画の発表

2日付プレス・リブレ紙は、グアテマラ市が同市と近隣のミスコ市を結ぶ新交通システム「Aero Metro」を2025年から2027年にかけて建設する旨を発表したと報じた。同システムは10~12人乗りのロープウェイ形式。

また、8日付プレス・リブレ電子版は、これとは別のインフラ整備として、首都のラ・アウロラ国際空港から観光地アンティグア市を結ぶロープウェイ計画の基礎調査の実施が大統領府企画庁(SAGEPLAN)から発表された。同調査には、中央アメリカ経済統合銀行(BCIE)による5万米ドル

の資金供与がなされる予定。

2 外交

(1) ルビオ米国務長官が当国を訪問

4日から5日にかけてルビオ米国務長官が当国を訪問。5日、アレバロ大統領との共同記者会見では、グアテマラにおける治安強化のための合同タスクフォースの設置、首都圏メトロ計画における協力、米国陸軍工兵隊による港湾等整備支援、グアテマラ政府による不法移民の強制送還受入れ数 40%増加等に関する合意事項が発表された。

また、ルビオ長官は、5日、首都アウロラ空港に隣接する空軍基地内でヒメネス内務相他と国境警備を含む地域の治安に関する意見交換を行った。双方は逃亡犯検挙のための指紋データ・生態情報の共有解析等を通じてグアテマラの捜査能力を向上させることで一致した。

(2) 米国陸軍工兵隊、グアテマラのインフラ評価に着手

17日から、米国陸軍工兵隊(USACE)がグアテマラ国内の重要インフラを評価すべくグアテマラを訪問。今般の訪問では港湾、空港、鉄道インフラの分析が行われ、その後同評価結果に基づく技術支援が実施される予定。

(3) 台湾「大使」は台湾企業にとってのグアテマラの重要性を強調

17日付当地主要紙プレンサ・リブレは、「他の市場へのゲートウェイともなるグアテマラは台湾企業にとって重要」との見出しでヴィヴィア・チャン当地台湾「大使」のインタビュー記事を掲載した。

チャン「大使」は、着任後の半年間、農業、教育、インフラ、保健等の分野に注力してきたと言及。また、グアテマラ・台湾関係について、ルビオ米国務長官の当国訪問の機会に米国から明確な支持が得られたこと、アレバロ大統領からも台湾支持が改めて表明されたことに謝意を表した。また、頼台湾総統が、ルビオ長官の当国訪問を受けグアテマラとの貿易・投資を通じた更なる関係強化を目指していると発言。

(4) グアテマラ・メキシコ外相会談: 共通の課題に対する協力強化で一致

10日、マルティネス外相は、メキシコシティにおいてデ・ラ・フエンテ・メキシコ外相との初会談を行った。両外相は、国境管理、鉄道接続、経済統合、人の移動、開発協力、文化などの二国間の主要議題について協議した。税関での共同貨物通関のパイロット計画の進展が確認された他、グアテマラ、メキシコ、ホンジュラス間の領事協力グループ(GCC)の重要性も再確認された。また、メキシコ側からグアテマラ起源の出土品の返還も行われた。

3 経済

(1) 1月の郷里送金が前年比 24%増加

6日、当国中銀は1月の家族送金が前年同月比 24%増の 18 億 1,760 万ドルに達した旨発表し

た。当地専門家は、この増加はトランプ大統領の移民政策、特に複数の州で実施された移民取締りに関連しており、不安を感じた移民が資金を移動させていると分析している。

(2) フィッチ、グアテマラの信用格付けを BB で維持

7日、格付け会社フィッチ・レーティングスは、グアテマラの長期発行体デフォルト格付け(IDR)を BB で維持しながら、その見通しを「安定」から「ポジティブ」に上げた。フィッチは、政府の経済成長と安定性に注目し、インフラおよび社会的ニーズへの対応が経済にプラスの影響を与えると評価している。加えて低い財政赤字と対外準備の増加もプラスに評価された。一方で、ガバナンスや汚職対策が依然として課題であると指摘している。

(3) グアテマラの 2024 年輸出総額が前年比 2.8%増を記録

9日、当国中銀は、2024 年の輸出総額が 145 億ドルを超え、前年比で 2.8%増加したと発表した。主要輸出品目の割合は衣料品(11.1%)、バナナ(6.6%)、コーヒー(6.3%)、砂糖(5.0%)等であり、特に衣料品は 5.9%の伸びを示した。輸出先内訳は米国が最も多く輸出総額の 31.9%を占める。その他の主要輸出先は中米 36.7%、ユーロ圏 7.2%、メキシコ 5%等。カルバリド輸出業者協会(AGEXPORT)事務局長は、中米市場の回復、農産物の増加が輸出額増加に寄与したと説明している。また同事務局長によると、2025 年は 4%の輸出額増加を見込んでおり、トランプ政権がグアテマラに対して関税の見直しや自由貿易協定の圧力を強める可能性は低いとみていると述べた。

4 その他

(1) 路線バスが渓谷に転落し 55 名が死亡

10 日未明、グアテマラ県北東部に隣接するエル・プログレソ県発首都グアテマラ市行きの路線バスが、グアテマラ市第6地区の下り坂で渓谷に転落する事故が発生。乗員乗客約 70 名の内 55 名が死亡した。日本人の被害者はなかった。

《経済指標》

◇主要経済指標◇	2025 年		2024 年	2023 年
	2月	1月		
インフレ率(前年同月比)	1.79%	2.19%	2.88%	6.27%
貿易収支(百万ドル)	未発表	△1,761.1	△17,928.9	△16,124.2
輸出(百万ドル)	未発表	1,213.0	14,561.4	14,194.3
輸入(百万ドル)	未発表	2,974.1	32,490.3	30,318.5
外貨準備高(百万ドル)	25,178.2	24,434.3	22,452.40	21,319.4
外国からの送金(百万ドル)	1,821.4	1,817.6	21,510.2	19,804.0
為替レート(対ドル月平均)	7.71	7.72	7.76	7.85

